

リニアを見据えた長野県の取組

リニア開業に伴う新たな圏域形成に関する関係府省会議

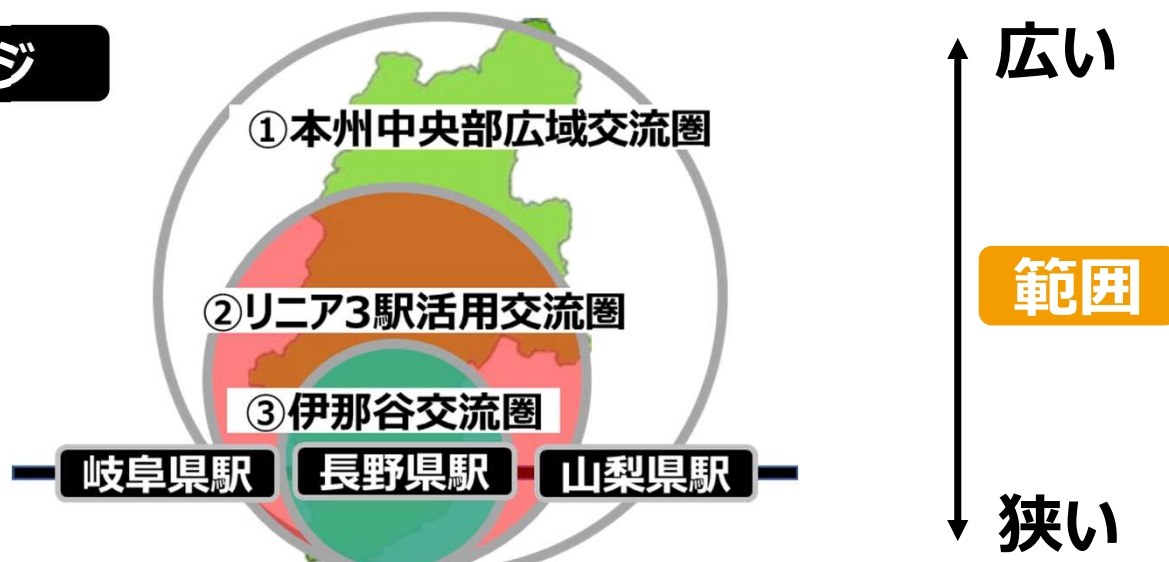
令和6年1月30日 長野県副知事 関 昇一郎

長野県リニア活用基本構想～リニア中央新幹線が創る信州の未来～

リニアの整備効果を広く県内に波及させ、長野県の発展につなげることを目的に策定（H26.3）

駅勢圏・地域の実態に応じた3つの交流圏構想

イメージ



構想	想定地域
①本州中央部広域交流圏構想	【長野県全域】
②リニア3駅活用交流圏構想	【長野県駅・山梨県駅・岐阜県駅の駅勢圏】 諏訪・木曾・松本地域及び近隣地域（県中央地域）
③伊那谷交流圏構想	【長野県駅の駅勢圏】 上伊那・南信州地域（伊那谷）

1-1 広域的な交通体系の構築

(1) リニア関連道路の先行整備(長野県のインフラ整備:県内へのリニア効果の波及)



関連道路の整備により伊那谷人口（約34万人）の85%を東京90分圏、60%を名古屋60分圏とするインフラ整備を積極的に推進

① リニアと高速道路を一体化する関連道路整備

- ・座光寺SIC共用：(R3.3)
- ・同SIC-リニア駅間5分直結のアクセス道路新設：(R9完了予定)
(主) 飯島飯田線・(都) 東新町座光寺線 飯田市上郷
- ・その他 (国) 153号 飯田北改良
(都) 東新町座光寺線 飯田市上郷
(国) 153号 伊駒アルプスロード (直轄権限代行)

② 「リニア3駅活用交流圏」の実現に向けた整備

- ・諏訪湖SIC (仮称) 他周辺道路
- ・木曽川右岸道路 (読書~戸場ほか)

③ 相乗効果を高める三遠南信自動車道の整備促進

1-2 広域的な交通体系の構築

(2) 交通アクセス(2次交通関係)

① リニア活用を見据えた2次交通の検討と維持・機能向上

- ・ リニア駅からの伊那谷地域の2次交通を官民一体で検討
 視点：広域(県内南北軸)及び地域内公共交通の維持と活用
 望ましいモビリティの導入(自動運転等)
- ・ 地域連携ICカードの導入支援や交通情報のオープンデータ整備
 など交通DXの推進

② 空飛ぶクルマ等次世代モビリティの実証実験への取組

- ・ R5.9.12 「信州次世代モビリティ活用推進協議会」の設立
 (R6.1.18現在 会員団体数：125団体)
 - ・ R5.12.19 伊那路・木曽路「空飛ぶクルマ×リニア」
 ワークショップの開催
 - ・ 「山岳県長野県版ロードマップ」を作成中
- ※伊那谷地域を実証実験エリアの選択肢として検討



参加募集!
伊那谷・木曽路「空飛ぶクルマ×リニア」ワークショップ

「リニア」だけでなく「空飛ぶクルマ」もやってくる!?
 伊那谷・木曽路のワクワクする未来を一緒に考えましょう!

※電動+自動運転車(将来的に自動運転)の両方を導入する際のモビリティ、
 へはも交通インフラ整備、近-中距離の空の移動を大衆化する可能性を持っている。
 2024年の目標、2025年の入札、開通以降でサービス開始予定。

日時 令和5年(2023年)12月19日(火)
 【1回目】9:30-12:00 【2回目】14:00-16:30
 ※各回で同内容のワークショップを行います。いずれかにご参加ください

場所 「エス・バード」E201会議室
 〒395-0001 長野県飯田市座光寺3349-1

対象 ・上伊那・南信州・木曽各広域周辺自治体、観光DMO、事業者等
 ・「信州次世代空モビリティ活用推進協議会」会員

内容(予定)

- ・講演(20~30分)
 「空飛ぶクルマ」の概要と国内外の動向
- ・ワークショップ(2時間ほど)
 空飛ぶクルマを使ってどこで何を?
 活用する際はどんな関係者がいる?
 関係者はどんなメリット/デメリットを感じそう?

※本WSは、以下の位置付けを兼ねた合同イベントです。
 > 「リニアアクセス検討会議」の勉強会
 > 「信州次世代空モビリティ活用推進協議会」の勉強会
 > 12/23「次世代空モビリティ シンポジウム in エス・バード」
 (両信州・飯田産業センター、飯田市主催の連携イベント(チラシ添付))

主催：長野県企画振興部DX推進課・地域振興課
 長野県建設部リニア整備推進局
 大館駅エリア

参加申込はこちら
 期間：12/15(金)
<https://forms.office.com/r/y80nn375kr>

2-1 リニアを見据えた伊那谷地域の産業振興

(1) エス・バードを拠点とする先進的産業分野への構想と推進

<エス・バード/S-Bird>

- ・ 航空機産業をはじめとした南信州地域の産業の高度化・高付加価値化を実現するための施設
- ・ 信大・県・南信州地域が連携し旧飯田工業高校校舎に整備(H31.3開設)



エス・バード(飯田市)

① 航空機システム産業振興拠点

～アジアNo.1の航空機システム拠点の形成を目指して～

取組

- ・ 信州大学航空機システム共同研究講座設置
(高度人材育成) (H29(2017).4～ ※R6まで継続)
- ・ 長野県工業技術総合センター航空機産業支援サテライト設置
(技術開発支援機能) H29(2017).4～
- ・ 航空機システムの環境試験を行う実証支援機能 (国内唯一の環境試験設備)
- ・ NAGANO航空宇宙産業クラスターネット(R3.4～)
➢ 支援機関 (大学・試験研究機関・産業支援機関・行政等) と会員企業が連携

展開

- ・ 「次世代モビリティの社会実装に向けた実現プロジェクト」(NEDO公募事業) に参画 (R4～: 5年間)
- ・ 航空機電動化・次世代エアモビリティ事業セミナー (R5.9 開催)
- ・ 次世代エアモビリティシンポジウムinエス・バード (R5.12 開催)



2-2 リニアを見据えた伊那谷地域の産業振興

②水循環・地産地消型水由来水素の研究開発（アクア・リジェネレーション）

信州大学の取組

- ・新しい学問分野「アクア・リジェネレーション(ARG)」を推進
- ・光触媒の技術で電気をいわずに水から水素を製造する屋外実験設備を設置する等の実証タウン計画

※R5年12月「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」（文科省採択）

■地元地域への協力依頼（飯田市での展開）

①グリーン水素製造の実証事業

- ・ラボスペース及び水素発生パネル等を設置し、グリーン水素を生成・供給

②実証タウンの構築

- ・地域実証・実装を担うARGコンソーシアムを形成し、水・エネルギーの地産地消モデルを構築



資料提供：信州大学

2-3 リニアを見据えた伊那谷地域の産業振興

(2) AI・IoT等の新たなテクノロジーの活用

- ・ 技術力の高い「ものづくり企業」への新産業技術（AI、IoT）の導入

- ・ 新産業創出の取組

無人VTOL機による物資輸送プラットフォーム構築事業（伊那市）
（中央アルプス・南アルプスで推進）

伊那市が保有する山小屋（中央アルプス西駒山荘、南アルプス仙丈小屋、南アルプス塩見小屋）への山岳物資輸送ルートと持続可能なビジネス輸送モデルを構築
（～全国へのビジネスモデル展開を目指す～）



無人VTOL機（R5.11撮影）
（伊那市実証実験飛行試験）

(3) 観光での地域資源ポテンシャルの活用

【課題】 地域の魅力や観光資源の認知度向上（広域的な情報発信）、周遊ルート、ターミナル駅との連携

【取組】 観光拠点（施設）の受入環境整備（山岳観光、自然体験、インバウンド対応）

サイクルツーリズムの推進（Japan Alps Cyclingプロジェクト（R4：県内全ルート確定、約800km）

3-1 伊那谷地域の強み・ポテンシャルを活かす2つの柱(環境 ①)

持続可能な環境先進地域づくり (その1)

<長野県> R5年度から地域におけるエネルギーの地産地消を目指す「エネルギー自立地域」創出への支援開始

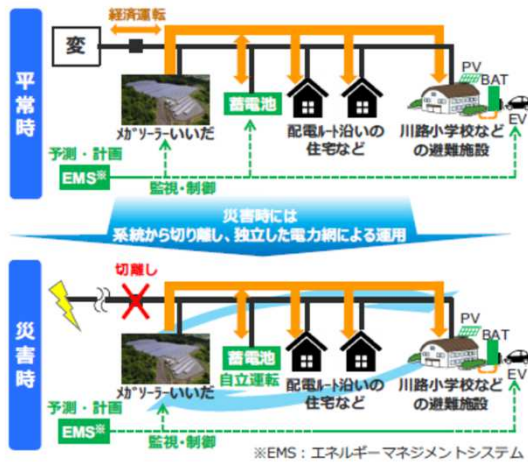
太陽光発電

<飯田市>

環境省 **脱炭素先行地域** に選定

川路地区：地域マイクログリッド

→ 脱炭素と災害レジリエンス機能強化



水力発電

県企業局の水力発電所数

区分	発電所数	出力合計 (kW)	発電電力量 (※2)
運転中	23 (※1)	104,655	424,474千kWh (11万8千世帯)
建設中 (受託工事含む)	7	5,254	25,313千kWh (7千世帯)
計	30	109,909	449,787千kWh (12万5千世帯)

※1：23か所中5か所は大規模改修中(2,632kW出力アップ見込み)
 ※2：()内は賄える世帯数を1世帯の年間消費電力量3.6千kWhで試算

- ・県内23か所のうち16か所(7割)が伊那谷に！
- ・R2.3月「信州Greenでんき」販売開始

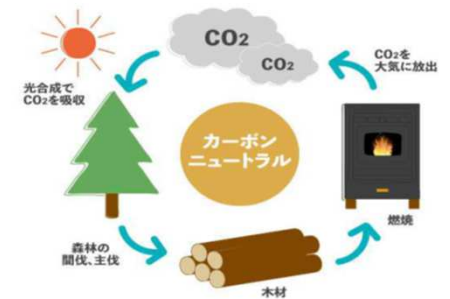
森林資源

<森林率>

- ・伊那谷83% (全県78%、全国67%)

<木質ペレット生産>

- ・伊那谷で全県の8割



- ・J-クレジット(森林吸収系)を導入(根羽村)

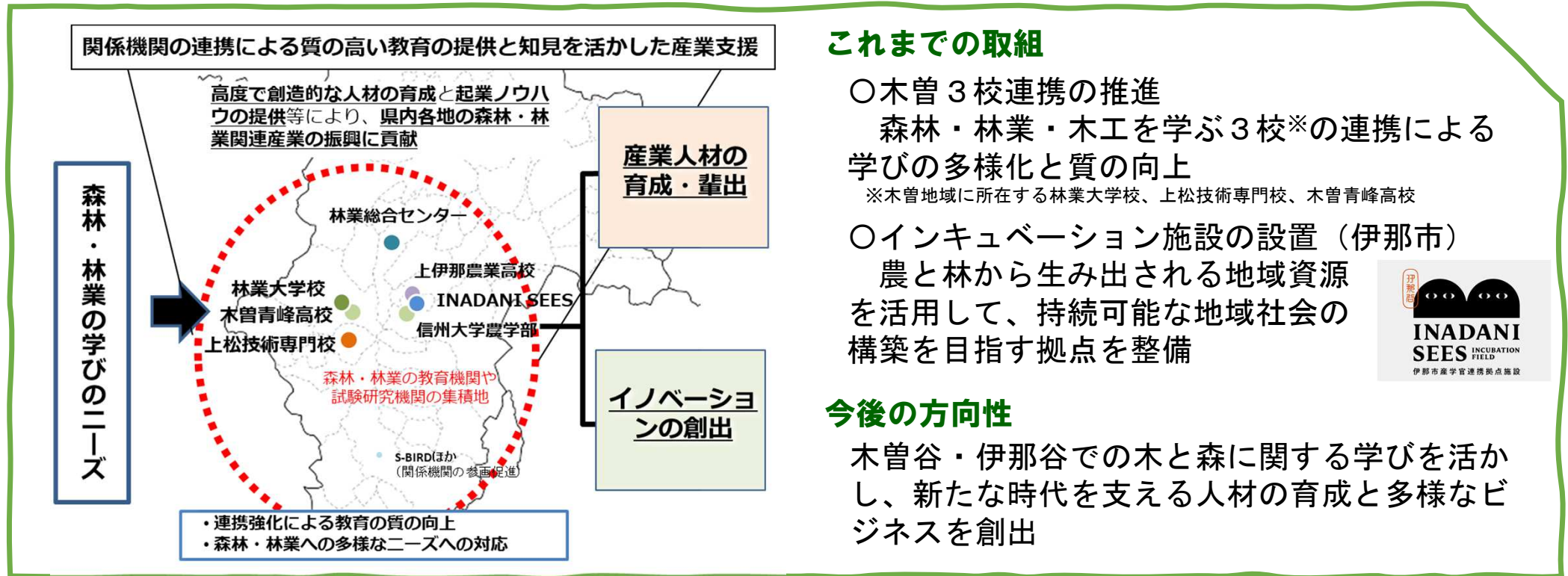
リニア駅前広場では、再生可能エネルギーや脱炭素技術の活用による省エネ・創エネの取組により、ゼロエミッションのモデルとなるシステムの構築を目指す。(飯田市)

3-1 伊那谷地域の強み・ポテンシャルを活かす2つの柱(環境 ②)

持続可能な環境先進地域づくり (その2)

<長野県：木曽谷・伊那谷フォレストバレーの形成>

森林・林業・木工に関する教育機関、試験研究機関が集積している木曽谷・伊那谷地域の特性を活かした、質の高い教育の提供と創業支援を通じたイノベーション創出を目指す



3-2 伊那谷地域の強み・ポテンシャルを活かす2つの柱(教育・学び)

豊かな自然環境と独自の文化などを活用した教育・学びの先進地域づくり

信州やまほいく

- ▶ 自然体験を通じて自ら学び成長しようとする力を育む
「信州やまほいく」の認定制度を創設 (H27.4全国初)
- ▶ 認可外保育施設に対する運営費助成や幼児教育無償化の対象外の世帯の保育料の負担軽減を実施

▶ 「信州やまほいく」認定園数
152園 (H29) ⇒ **298園**
(R5.10)



「信州やまほいく」
シンボルマーク



信州自然留学 (山村留学)

- ・ 山村留学生は、都会の学校では得難い、
健やかでたくましい心身と豊かな人間性が育まれる

▶ 長野県内の受入状況 (令和3年度)

- ・ 山村留学生 留学者数：159人
(全国2位の多さ)
- ・ 実施団体所在市町村数：12
(うち伊那谷 8)



長野県は
「山村留学」
発祥の地

子どもの求めや願いに沿って展開：総合学習・総合活動

伊那市立伊那小学校
「Forbes JAPAN」教育に関するアワード30の教育機関に選出

文化・スポーツ施設の整備の検討

地域の文化・スポーツの発展及び地域外への訴求力がある施設整備に向けた検討

- ・ 文化会館の整備
- ・ アリーナを中心とした複合施設の検討

大学のあるまちづくり

高等教育機関の立地促進：4年制大学設置の地元誘致活動

- ▶ **リニア開業を追い風に！**

4 リニア中間駅圏域の「新たな暮らし方働き方の先導モデルの形成」を長野県から



信州リゾートテレワーク 二地域居住の推進

- ▶ **現在、100を超えるリゾートテレワーク拠点が誕生**
県内12の市町村をモデル地域に選定し、全国に先駆けてテレワーク環境の整備等を支援（H30～R2）
- ▶ **二地域居住の推進**（支援サイト：ニブンノナガノ）



こまがね市民活動支援センターぱとな

企業との共創による 地域の魅力向上

- ▶ **「おためし立地チャレンジナガノ」をスタート！**
 - ・市町村の地域課題と県内外の企業をマッチングし、地域と企業で行う新たなサービス開発等や実証プロジェクトの構築を支援（リニア版 おためし立地チャレンジナガノ(伊那谷地域等)：R5スタート）
- ▶ **「上伊那×若者つなぐプロジェクト」**
 - ・上伊那の企業・団体・行政の若手社員のみで、女性や若者目線で地域の課題抽出を行い、より働きやすい暮らしやすい上伊那の地域づくりを目指す

長野県が実現を目指す 「女性・若者から選ばれる県づくり」

- ▶ **「女性・若者から選ばれる県づくり」プロジェクト(R5.4～)**
 - ・仕事と子育て等との「両立」が当たり前の働き方へ転換、「子育て社会化」を目指す（女性の働きやすい職場づくり、希望がかなうUターン・移住、女性若者企業支援 等）
- ▶ **伊那市の取組事例**
 - ・仕事と子育てを両立できる多様な働き方を可能とする職場環境を創出するため、「仕事と子育ての両立支援施設（愛称：ママand(ママアンド)」を整備（R4.5月 市内の保育園を再利用 ※貸しオフィスには通信販売事業者のコールセンター設置）

5 リニア中間駅圏域のまちづくりを市町村と連携し推進

飯田市 リニア時代を見据えた21世紀型の新しいまちづくりを展開

・リニアを核とした交流重心【リニア活用グリーンエリア】

【取組】グリーンインフラの導入検討、災害レジリエンスの構築の検討

サステナブルオフィスゾーン（リニア駅とエス・バードを結ぶ区域）

研究開発や人材育成の機能を持つ大学を誘致、自然の調和する良好な景観

伊那市 産学官民連携によるまちづくりを推進（R5年度～）

・リニア整備による交流人口増加や高校再編等の環境変化をまちづくりに

【取組】中心市街地のエリア価値向上・ブランド創出、ウォークブル、グリーンインフラ

中心市街地と近隣の多くの教育機関を文教エリアとして連携充実

駅まち空間の再生検討、AI やIoT 等現場投入によるイノベーションの実現

長野県 リニア駅近郊ランドデザインの策定（R6年度～）

・メリハリのある土地利用を促進し、民間機関を巻き込んだ「環境共生」「教育・学び」の先進地域づくりを推進

【取組】 広域的な視点に立った戦略的なランドデザインを県と市町村が協働して策定、国の検討会議への提案等にも反映

【効果】 データに基づく地域の強み等が明確化、広域的な取組の方向性を共有

民間企業等へのアプローチが加速、近郊エリアから周辺地域にも取組が拡大

下伊那北部 5 町村

リニアを見据えた北部まちづくり構想

・将来へのまちづくりの認識共有

【将来像】 (R4.12策定)

「住んで楽しい・遊んで楽しい」地域へ

【6つのテーマ】

・社会基盤（道路、交通、拠点）

・医療、福祉（将来への安心）

・子育て・教育（高等教育機関誘致）

・住まい・働く（新たな働き方・暮らし方）

・ゆとり・レジャー（体験・観光地域づくり）

・地域の伝統文化景観を守る(担い手育成)